

京都市令和3年度当初予算案（文化関係）

～あらゆる危機から市民の命と暮らしを守り抜く持続可能な予算～

予算編成に当たっての考え方

（基本姿勢）

- ① コロナ禍と財政危機の「2つの危機」に対して、今と未来を見据え、市民の命と暮らしを守り抜く予算
- ② 安心安全で、活力と魅力あふれる京都を将来にわたって継承・発展し、新たな京都市基本計画「はばたけ未来へ！京プラン2025」に掲げる京都の未来像を実現するため、持続可能な行財政の確立に向けた改革をこれまで以上に徹底
- ③ 政府の経済対策と歩調を合わせ、切れ目のないコロナ対策と市民の命を守る防災・減災対策などについて、令和2年度2月補正予算と一体的に編成

（行財政改革の6つの視点）

- 視点1 将来にわたって全ての世代が安心安全で暮らしやすい、魅力や活力あるまちづくり中長期的に効果を発現
- 視点2 市民のいのちと暮らしを守るために真に必要な施策を持続可能なものとして実施するための事業見直し（消費的経費）
- 視点3 投資事業の選択と集中（投資的経費）
- 視点4 公共施設の適正管理・受益者負担の適正化
- 視点5 連結の視点（繰出金）
- 視点6 組織・人員体制・人件費の適正化（人件費）

**「文化首都・京都」の魅力や都市格の更なる向上、
暮らしと将来に夢と希望を持ち、豊かさが実感できるまちづくり**

(1) 多様な文化を創造・発信する「世界の文化首都・京都戦略」

①新規 持続可能な文化芸術の振興 ～ウイズコロナからポストコロナへ～

5,000万円

ウイズコロナ社会での文化芸術活動の継続・再開に関する相談に総合的に対応するため、京都芸術センターに開設した総合相談窓口を継続設置するとともに、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受ける文化芸術活動について、民間資金を活用したサポートを行う制度を創設

②継続 京都映画賞（仮称）の実施～時代劇の担い手を未来へ～ 1,848万円

京都が培ってきた映画文化の継承と更なる振興を図るとともに、時代劇をはじめとした京都での更なる映画製作につなげるため、京都ならではの新たな映画顕彰制度を創設

③継続 KYOTO STEAM—世界文化交流祭— 1億5,000万円

アーティストと企業・研究所等団体を公募し、そのコラボレーションアート作品を展示・表彰する「KYOTO STEAM 2022 国際アートコンペティション」をメインプログラムとして、「アート×サイエンス・テクノロジー」をテーマとした各種プログラムを、岡崎地域を中心に実施

④継続 アート市場活性化事業 625万円

- (1) 企画ギャラリーの集積と若手芸術家の創作環境の向上を目指す新たな取組として、展覧会の開催及びアートフェアへの出展を支援
- (2) 芸術家が作品を保管し、販売につなげることができる「ビューイングルーム」等の創設に向けた検討

⑤継続 京都文化カプロジェクト 2016—2020 の実施 2,000万円

東京 2020 オリンピック・パラリンピックに合わせて令和 2 年度に実施予定だったメイン事業「京都文化芸術祭（仮称）」を実施するほか、ホームページの運営等を行い、京都の文化を国内外に向けて発信する。

⑥継続 京都国際舞台芸術祭（KYOTO EXPERIMENT） 4,600万円

「京都文化の＜現在＞を世界に発信する、新たな観光資源としての国際フェスティバルを目指す」ことを基本理念とし、国内外の先駆的な舞台芸

術を紹介する世界的な芸祭を開催する。出演団体の多様化，新たな人材の発掘，育成等の観点を踏まえ，今後，毎回新たなテーマを設定して実施することも実行委員会において検討されている。

- ⑦**継続** Living History in 二条城 ～生きた歴史体感プログラム～2,500万円
歴史的な出来事や当時の生活，その時代の文化を体験できる「Living History～生きた歴史体感プログラム～」として，令和元年度に実施した寛永行幸期の茶会等を再現したプログラムの自走に向けて取り組むとともに，大正天皇御即位の大饗宴，大政奉還の3事業を実施
- ⑧**継続** 二条城2021 1,500万円
東京2020オリンピック・パラリンピック等の延期開催に合わせ，国内外の観光客に，二条城の価値や魅力を発信するため，令和2年度に予定していた桜まつりや夏季ライトアップの充実，国宝「二の丸御殿」の大広間特別入室や重要文化財「西南隅櫓」の特別公開を実施
- ⑨**継続** 二条城城内環境向上事業 620万円
良好な観光環境を整備するため，二条城の観覧ルートのバリアフリー化（主要な砂利道通路の改良）の推進，庭園を維持するための整備や改修，老朽化したサクラの継続的な更新や場内全体の花木を充実していくための植栽計画の策定等を実施
- ⑩**継続** 子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出 3,300万円
新型コロナウイルス感染症による影響が長期化し，社会や経済など，様々な活動が制約を受ける厳しい状況の中，人の心に作用する文化芸術の果たす役割は大きいと見られ，本事業により，子どもたちがほんものの文化芸術に触れられる機会を確保するとともに，次世代の「担い手」，「支え手」の育成に取り組む。
- ⑪**継続** 文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業 1,520万円
福祉施設等が文化芸術の取組に着手する際の相談事業の実施，文化芸術と社会課題をつなぐコーディネーターの育成など，文化芸術により社会課題や困難の緩和につなげ，共生社会を実現するための基盤づくりを実施
- ⑫**継続** 芸術大学移転整備事業 1億3,383万円
建学以来140年にわたり，国内外の芸術界や産業界で活躍する人々を輩出し，文化芸術の発展に貢献してきた京都市立芸術大学を，京都の玄関口である京都駅東部エリアへ移転整備し，世界に冠たる芸術大学としてより一層の飛躍を果たすと同時に，京都駅東部エリアに「文化芸術都市・京都」

の新たなシンボルゾーンを創生する。

- ⑬ **新規** バーチャル京都館モデル実証事業 2,200万円
仮想空間上に京都館を構築し、京都館が担っていた文化体験などの学びの機能や、伝統産業製品等の物販の機能を実装することで、コロナ禍において売上不振にあえぐ事業者への支援に繋げるとともに、首都圏を含め、幅広く京都の文化・産業等の魅力を発信し、誘客・移住・企業誘致等による都市の持続的発展、京都への投資の喚起を図る。
- ⑭ **新規** 京都・キエフ姉妹都市提携50周年記念事業、京都・ザグレブ姉妹都市提携40周年記念事業 280万円
コロナ禍における渡航制限の状況等を鑑みながら、オンライン等により実施